

歌い継がれている子どもの歌

－ 明治・大正・昭和初期の作品 －

森 久見子

Favorite Children's Songs － From the Meiji, Taisho and Early Showa Eras －

Kumiko MORI

緒 言

本学、短期大学部保育学科が平成17年度に開設されて以来、音楽関連科目の「基礎技能（音楽1）」および「基礎技能（音楽2）」は非常勤講師8名と筆者で担当してきている。授業内容と教科書については、毎年全員で検討し、決定している。とくに「基礎技能（音楽2）」の授業内容の「弾き歌い」と「歌唱法」で教科書として使用する「子どもの歌」の曲集については、授業で使用するだけではなく将来保育者として携わる時に現場で幅広く活用できるものが望ましいことも考慮して選択している。

教科書を選択する際には、曲の種類、知っていなくてはならない曲、知っていてほしい曲、よく歌われている曲などの収録状況に視点を置いてきた。しかしながら、作曲年代についてはとくに問題にしてこなかった。

明治時代になり日本に西洋の音楽が輸入されてから今日まで多くの「子どもの歌」が作られてきた。草創期の「子どもの歌」は明治10年の「保育唱歌」に始まるが、これは雅楽部伶人の作品によるもので音楽も歌詞も子どもにとっては大変難しいものであった。本格的に「子どもの歌」が出版されたのは音楽取調掛編纂の「小学唱歌集（初編）」（明治14年）、「小学唱歌集（第二編）」（明治16年）、「小学唱歌集（第三編）」（明治17年）、そして「幼稚園唱歌集」（明治20年）である。これらの曲集に収録されている曲はほとんどが外国の子どもの歌、民謡、賛美歌など外国の音楽に日本語の歌詞を付けたものであることはよく知られている。明治30年頃から邦人の詩と音楽による「子どもの歌」の曲集が出版されるようになり、その後大正時代のいわゆる「童謡運動」を経て昭和になり、そして終戦を迎えるまでには多くの「子どもの歌」が作られている。戦後は、芸術的にも価値があるとされている「子どもの歌」を含む数えきれないほど多くの作品が生まれている。またテレビソング、アニメソング、ディズニーソングやフォークソングなどいろいろなジャンルの音楽が子どもたちによって歌われている。

このように現在、子ども達はいろいろな国の、いろいろな年代の、いろいろなジャンルの音楽を享受している。そして「子どもの歌」の曲集も現状に対応してさまざまな曲が収録されている。新しい「子どもの歌」がどんどん歌われている中で、昔の「子どもの歌」が歌われることが少なくなっていると感じていた。そこで現在出版されている「子どもの歌」の曲集に、日本の洋楽発展期に作られたどのような作品がどれほど収録されているのかについて調査することにした。

今回は、「日本童謡唱歌体系」（全6巻）の明治・大正・昭和の作品が収録されている「第Ⅰ巻」を基にして、その時代のどのような作品が現在でも「子どもの歌」の曲集に収録されているかについて調査し、考察することにした。「日本童謡唱歌体系第Ⅰ巻」にはすべての作品が収録されているわけではないが、精選精査された作品が収録されていることからこの曲集を基にして調査することにした。調査対象の「子どもの歌」の曲集については、これまでに収集した曲集より選択した12の曲集を対象として調査を行うことにした。

「日本童謡唱歌体系」

1) 「日本童謡唱歌体系」

「日本童謡唱歌体系」全6巻は、作曲家中田喜直、湯山昭、児童文学者藤田圭雄、作家阪田寛夫の4氏が編集の中心となり1997年に出版された。全6巻には精選精査された日本の詩人と作曲家との作品が1113曲収録されている。作品は年代的に大きく2つに分けられており、第1巻には明治、大正、昭和初期（1945年頃まで）の作品222曲が、第2巻から第6巻にはそれ以後の作品より891曲が収録されている。作曲年代は付されておらず2つの区分であいうえお順に収録されている。

藤田圭雄氏は「序」で次のように述べている。

「今回、西暦2000年を迎えるにあたり、20世紀の総決算としてこの体系が出版される意義は尊いものです。世界中のどこの国にも、こんなに熱意を籠めて子どもの歌を見つめているところはあります。童謡の専門の作家たちが、社団法人の協会を結成し、詩人と音楽家が協力して新鮮な歌の数々が創られて行きます。

その最も中心にあって活躍している中田喜直、湯山昭が明治・大正・昭和・平成にわたる無数の資料を集め、その全作品を精査したのがこの体系です。それには阪田寛夫は芸術面から、私は歴史的視点からそれぞれ手伝ってきました。20世紀の意義深き遺産として永遠に伝えたいと思います。」

2) 「日本童謡唱歌体系第1巻」の概観

「日本童謡唱歌体系第1巻」（以下「第Ⅰ巻」）に収録されている222曲を収録順にまとめた表を作った（表1）。備考欄に手持ちの資料から判明した作曲年代、詩の掲載などについて付しておいた。

作品は低年齢向きから大人向きまでのものがあり、音域は最低音が＜シャボン玉＞のイ音、最高音が＜からたちの花＞の2点ト音であるが、子どもむけの曲は1点ハ音から2点ニ音間の作品が多い。歌詞については子ども向きの作品ではほとんど理解できるが、説明を必要とする言葉が若干ある。

最も早い年代の作品は雅楽省の伶人の作といわれている＜仰げば尊し＞である。この曲は音楽取調係編纂の「小学唱歌集第三編」（明治17年出版）に第53曲（初編から第三編まで通し番号）として収録されている。周知のとおり当時は外国の音楽に日本語の歌詞を付けたものが多く、＜仰げば尊し＞のように邦人の作品は少なかった。

ちなみに当時の外国の曲では「小学唱歌集初編」（明治14年）収録の＜蝶々＞、＜見わたせ

ば>(現在のくむすんでひらいて>)、<蛍>(現在のく蛍の光>)が、「第二編」(明治16年)収録のく霞みか雲か>、「第三編」収録のく花鳥>(現在のウエルナーのく野薔薇>)、「幼稚園唱歌集」(明治20年)のく蝶々(「初編」より)>(現在のくちょうちょう>)、<霞か雲か(「第二編」より)>、<うづまく水>(現在のくキラキラ星>)、<蜜蜂>(現在のくぶんぶんぶん>)などが今でも歌われている。

明治20年代の作品としては当時の社会的状況を反映している「婦人従軍歌」や「紀元節」、「天長節」、そして「舟あそび」、現在でも歌われている「夏は来ぬ」の5曲が収録されている。また20年代になると日清戦争を前に「軍歌」がよく歌われ、「軍歌」の楽譜出版も盛んであったようだ。音楽取調掛編纂の4つの「唱歌集」が出版された後、33年に「幼年唱歌」、34年に「幼稚園唱歌」が出版された。43年に「尋常小学読本唱歌」が、44年に「尋常小学唱歌」が昭和にかけて編集され文部省唱歌として出版された。これらの曲集のために作曲された作品も「第Ⅰ巻」に多数収録されている。

大正時代に入ると「童謡運動」が始まり、子どものための詩である童謡は「赤い鳥」だけではなく「金の星」、「金の船」、「金の塔」などの雑誌に掲載された。童謡は作曲家の中山晋平、本居長世、山田耕筰、成田為三、草川信等によって作曲され、音楽作品の童謡として世に受け入れられていった。「第Ⅰ巻」には<雨>、<あわて床屋>、<かなりや>、<からたちの花>をはじめ多数の作品が収録されている。

昭和時代の作品は、現在でもよく歌われている<赤蜻蛉>、<うみ(文)>、<嬉しい雛祭り>、<たなばたさま>、<チューリップ>などが収録されている。21年にNHKラジオで発表された<緑のそよ風>については、おそらく終戦前に作曲された作品であろうと推測できる。しかし<歌の町>は手持ちの資料によると、「児童憲章制定」を記念して昭和26年に作られた作品となっているので戦後の作品といえる。「第Ⅰ巻」に収録されていなくても、昭和初期には歌われていた童謡や唱歌、ほとんど知られていない作品や時代的、社会的背景から生まれた作品が存在していることであろう。

題名の改題については、明治44年の文部省尋常小学校唱歌<鳩>が<はとぼっぼ>の題名で収録されている。草川信作曲の<汽車>は昭和13年に<兵隊さんの汽車>の題名で発表され、その後に歌詞の一部が改作され題名も<汽車ポッポ>と改題された。現在出版されている曲集の中には「第Ⅰ巻」と同様に<汽車>となっているものもある。また、本居長世作曲の<汽車ポッポ>も収録されているが、曲集によっては<汽車ぼっぼ>と「ぼっぼ」が平仮名表記になっているものもある。<森の小人>は昭和16年にキングレコードから<土人のお祭り>という題名で発売されていたが、この作品もまた昭和22年に発表された時に題名は<森の小人>に改題された。

日本古謡<さくらさくら>は、山田耕筰の編曲による1つの作品として収録されていると考えられる。山田は大正11年に声楽家三浦環のために<さくらさくら>、<来るか来るか>、<きんにゃもにゃ>の3曲を編曲しているが、「第Ⅰ巻」に収録されている楽譜はその時の作品である。また<さくらさくら>は明治21年の東京音楽学校編纂「箏曲集」に<桜>の題名で収録されている。

表1

	曲名	作詞者	作曲者	備考		曲名	作詞者	作曲者	備考
1	青い眼の人形	野口雨情	本居長世	金の船 T10	70	蛙の夜まわり	野口雨情	中山晋平	
2	赤い鳥小鳥	北原白秋	成田為三	赤い鳥 T9	71	伊沢正風	伊沢修二	紀元節の歌 M21	
3	仰げば尊し	野口雨情	本居長世	小学唱歌集 M17	72	汽車(文)	大和田愛羅	専(三) M45	
4	赤い靴	野口雨情	本居長世	小学女生 T10	73	汽車	富原薫	草川信	S20
5	赤ちゃんのお耳	都築益世	佐々木すぐる	コードモノクニ S17	74	君が代	本居長世	山田耕柢	お花の兵隊さん S14
6	赤蜻蛉	三木露風	山田耕柢	櫻の実 T10 曲 S2	75	汽車ボンボ	野口雨情	山田耕柢	金の星 T15 曲 S1
7	朝	島崎藤村	小田道吾		76	きつねのちょうちん	野口雨情	山田耕柢	
8	朝の雪道	清水かつら	弘田龍太郎		77	木の葉(文)	葛原しげる	弘田龍太郎	
9	朝はどこから	森 まさる	横本國彦		78	キューピーさん	鹿島鳴秋	弘田龍太郎	T8
10	あした	清水かつら	弘田龍太郎	少女号 T9	79	金魚の星夜	石原和三郎	田村虎蔵	幼年(初の上)M33
11	教壇と忠度	大和田建樹	田村虎蔵		80	金太郎	萩原得子	大和田愛羅	
12	あの子はたあれ	細川雄太郎	海沼実	コロムビア S14	81	銀坊主	清水かつら	弘田龍太郎	少女号 T8
13	あの町この町	野口雨情	中山晋平	コードモノクニ T13	82	靴が鳴る	佐藤義美	河村光陽	コードモノクニ S9
14	雨	北原白秋	弘田龍太郎	赤い鳥 T7	83	グッド・バイ	土井晩翠	海康太郎	専(五) T2
15	アメフリ	北原白秋	中山晋平	コードモノクニ T14	84	鯉のぼり(文)	北原白秋	山田耕柢	曲 S2
16	雨降りお月さん	野口雨情	中山晋平	コードモノクニ T14	85	荒城の月	野口雨情	中山晋平	金の塔 T11
17	歩くうた	高村光太郎	飯田信夫	赤い鳥 T9 曲 S2	86	小鳥(文)	岡野貞一	福井直枝	専(六) T3
18	あわて床屋	北原白秋	山田耕柢	赤い鳥 T8 曲 S2	87	仔馬の道ぐさ	白沢清人	とやませんろく	赤い鳥 T11
19	あわて床屋	北原白秋	石川雲拙		88	黄金虫	丘みち	今川節	
20	いずみのほとり	深尾須磨子	横本國彦		89	児島高嶺(文)	島田芳文	大寅二	
21	池のこい(文)			専(一) M44	90	小雀	吉村一昌	梁田貞	幼年(二) T1
22	一月一日	千家草福	上真行	専(一ノ中) M38	91	こどもの楽隊	野口雨情	中山晋平	コードモノクニ T13
23	一寸法師	巖谷小波	田村虎蔵	専(一ノ中) M38	92	子供の村	北原白秋	山田耕柢	赤い鳥 T15
24	一寸法師	北原白秋	草川信		93	小鳥の夢	大寅二	梁田貞	
25	いなかの四季(文)	堀沢周安		専・読本 M43	94	木の葉	野口雨情	中山晋平	幼年(二) T1
26	犬(文)			専(一) M44	95	木の葉のお船	北原白秋	山田耕柢	コードモノクニ T13
27	犬のお芝居	北原白秋	成田為三		96	この道	大森いよ子	田中銀之助	山田耕柢編曲 T11
28	うぐいす(文)	林柳波	井上武士	ウタノホン(上) S16	97	子守唄	日本古謡	北原白秋	
29	雪の夢	野口雨情	中山晋平		98	さくらさくら	北原白秋	中山晋平	
30	兎と亀	石原和三郎	納所井次郎	幼年(二の上) M34	99	里ごころ	斎藤信夫	海沼実	コロムビア S20
31	兎のダンス	野口雨情	中山晋平	コードモノクニ T13	100	里の秋	勝承夫	清水かつら	少女号 T9
32	兎の電報	北原白秋	佐々木すぐる	赤い鳥 T8	101	さんぽ	弘田龍太郎	専(六) T3	金の塔 T11
33	牛若丸(文)			専(一) M44	102	叱られて	野口雨情	中山晋平	
34	歌の町	勝承夫	小村三千三	S26	103	四季の雨(文)	葛原しげる	佐々木すぐる	金の塔 T9
35	武島羽衣	田中穂積	美しき天然 M38		104	シャボン玉	野口雨情	中山晋平	金の星 T13
36	うみ(文)	林柳波	井上武士	ウタノホン(上) S16	105	ジャンケンポン	野口雨情	本居長世	専・読本 M43
37	おうま(文)	林柳波	松島つね	ウタノホン(上) S16	106	十五夜お月さん	野口雨情	中山晋平	赤い鳥 T14 曲 S1
38	浦島太郎(文)			専(二) M44	107	証城寺の狸囃子	佐佐木信綱	山田耕柢	
39	嬉しい雛祭り	サトウハチロー	河村光陽	S10	108	水師堂の金見(文)	北原白秋	時雨音羽	新訂専(六) S7
40	絵日傘	大村主計	豊田義一		109	すかんぼの咲く頃	林柳波	横本國彦	幼稚園唱歌 M34
41	お猿のかごや	山上武夫	海沼実		110	スキー	佐佐木信綱	海康太郎	少女号 T10
42	お正月	東くめ	海康太郎	幼稚園唱歌 M34	111	スキーの歌(文)	清水かつら	中山晋平	小学女生 T11
43	落葉	富原義徳	室崎等月		112	省	北原白秋	山田耕柢	小学女生 T11 曲 S1
44	お月夜	北原白秋	山田耕柢	赤い鳥 T15	113	省の学校	吉丸一昌	中田章	新作唱歌(三) T2
45	お山の猿	鹿島鳴秋	弘田龍太郎	T8	114	砂山	海野厚	中山晋平	T8
46	乙姫さん	野口雨情	本居長世		115	砂山	武内俊子	河村光陽	キング S16
47	臘月夜(文)	高野原之	岡野貞一	専(六) T3	116	早春賦	北原白秋	中山晋平	
48	おみやげ三つ	西条八十	中山晋平	コードモノクニ S6	117	青くらべ	加藤まささ	佐々木すぐる	少女倶楽部 T12
49	おもちゃのマーチ	海野厚	小田島樹人	東京日日新聞 T12	118	船頭さん	大和田建樹	多梅程	地理教育(一) M33
50	親子のあひる	葛原しげる	本居長世		119	たあんきぼうんき	永井水花	中山晋平	曲 S2
51	お山の杉の子	吉田テフ子	佐々木すぐる	少国民文学 S19	120	大黒さま	川路柳虹	山田耕柢	少女の友 T10
52	お山の大将	西条八十	本居長世	赤い鳥 T9	121	田植	武内俊子	中山晋平	
53	お山の大将	西条八十	山田耕柢	赤い鳥 T9 曲 S2	122	たきび	浅原鏡村	中山晋平	
54	お山の細みち	葛原しげる	小松耕輔		123	たこの歌(文)	葛原しげる	中山晋平	
55	帰る雁	野口雨情	本居長世		124	たなばたさま(文)			
56	かえろかえろと	北原白秋	山田耕柢	童話 T14 曲 T14	125	僕はごろごろ			
57	かし(文)			専(二) M44	126	たんじょうび			
58	風	西条八十	草川信	赤い鳥 T10	127	茶摘(文)			
59	肩たたき	西条八十	中山晋平	幼年の友 T12	128	チューリップ			
60	かたつむり(文)			専(一) M44	129	蝶々			
61	かやの木山の	北原白秋	山田耕柢	童話 T11 曲 T11	130	ちんちん千鳥			
62	カマコ鳥	野口雨情	山田耕柢	コードモノクニ T14	131	月(文)			
63	かなりや	西条八十	成田為三	赤い鳥 T7	132	月の砂漠			
64	鎌倉(文)	芳賀矢一	専・読本 M43		133	鉄道唱歌			
65	かもめの水兵さん	武内俊子	河村光陽	キング S12	134	椿			
66	からす	島本赤彦	本居長世		135	燕			
67	からたちの花	北原白秋	山田耕柢	赤い鳥 T13 曲 T14	136	てまりうた(文)			
68	雁がわたる(文)	加藤省吾	山口保治	曲 T14	137	てるてる坊主			
69	かわいい魚屋さん				138	電車			

139 電車ごっこ	井上超	下総統一	新訂専(一) S7	181 ふたあつ	まど・みちお	山口保治	キング S11
140 どじょこ ふなっこ		岡本敏明		182 舟あそび	大和田建樹	奥好義	明治唱歌(二) M21
141 天長節	黒川真彌	奥好義	官報附録 M26	183 吹雪の晩	北原白秋	草川信	赤い鳥 T10
142 時計台の鐘	高階哲夫	高階哲夫		184 冬景色(文)			専(五) T2
143 どこかで春が	百田宗治	草川信	小学男生 T12	185 ふゆこだち	野田しげみ	川澄健一	
144 トマト	北原白秋	弘田龍太郎		186 べたこ	野口雨情	中山晋平	
145 どんぐりころころ	青木存義	梁田貞	かわいい唱歌 T10	187 冬の夜	須藤克三	岡本敏明	専(六) T3
146 とんぴ	葛原しげる	梁田貞	大正少年唱歌 T8	188 故郷	高野辰之	岡野貞一	
147 とんぼがえり	三木露風	山田耕柝	曲 S2	189 兵隊ゴッコ	酒井良夫	中山晋平	
148 ナイショ話	結城よしを	山口保治	キング S14	190 ベチカ	北原白秋	山田耕柝	子供の村 T14 曲 T12
149 仲良し小道	三苦やすし	河村光陽	ズブヌレ雀 S14	191 まつぼっくり	広田孝夫	小林つや江	S11
150 梨の花咲く頃	清水かつら	草川信		192 ぼたる(文)	井上超	下総統一	新訂専(三) S7
151 夏は来ぬ	佐佐木信綱	小山作之助	新編教育(五) M29	193 牧場の朝(文)	船橋栄吉	山田耕柝	新訂専(四) S7
152 七つの子	野口雨情	本居長世	金の船 T10	194 待ちぼうけ	北原白秋	山田耕柝	子供の村 T14 曲 T12
153 人形(文)			専(一) M44	195 ままごと	浜田広介	草川信	
154 野菊	石森延男	下総統一	初等科音楽(一) S17	196 鞠と殿さま	西条八十	中山晋平	ゴドモノクニ S4
155 のつてった	西条八十	本居長世		197 水あそび	東くめ	滝廉太郎	幼稚園唱歌 M34
156 菊根八里	鳥居枕	滝廉太郎	中学唱歌 M34	198 みどりのそよ風	清水かつら	草川信	S21
157 羽衣(文)	林柳波	橋本国彦		199 港	旗野十一良	吉田信太郎	新編教育(三) M29
158 はとぼっぼ(文)			専(一) M44	200 虫の楽隊	桑田春風	田村虎蔵	少年唱歌(初) M36
159 鳩ぼっぼ	東くめ	滝廉太郎	幼稚園唱歌 M34	201 虫の声(文)			専・読本 M43
160 花	武島羽衣	滝廉太郎	四季の歌 M33	202 村の鍛冶屋(文)			専(四) T1
161 花かげ	大村主計	豊田義一		203 村祭(文)		南能衛	専(三) M45
162 花咲爺	石原和三郎	田村虎蔵	幼年(初の上) M34	204 明治節	堀沢周安	杉江秀	童話 T10
163 花嫁人形	藤谷虹児	杉山長谷夫	令女会 T12	205 めえめえ児山羊	藤森秀雄	本居長世	話話 T10
164 母の歌	板谷節子	橋本国彦	初等科音楽(三) S18	206 めんこい仔馬	サトウハチロー	仁木他喜雄	コロンビア S16
165 浜千鳥	鹿島鳴秋	弘田龍太郎	T8	207 紅葉(文)	高野辰之	岡野貞一	専(二) M44
166 浜辺の歌	林古溪	成田為三	浜辺の歌 T7	208 桃太郎	田辺友次郎	納所弁次郎	幼年(初の上) M33
167 はやおきどけい	富原薫	河村光陽	キング S12	209 桃太郎(文)		岡野貞一	専(一) M44
168 春が来た(文)	高野辰之	岡野貞一	専・読本 M43	210 森の小人	山川清	山田雅之	S16
169 春の唄	野口雨情	草川信		211 森の水車	清水みゆの	米山正夫	
170 春の小川(文)	高野辰之	岡野貞一	専(四) T1	212 もうこし畑	野口雨情	藤井清水	
171 春よ来い	相馬御風	弘田龍太郎	銀の鈴 T12	213 勇敢なる水兵	佐佐木信綱	奥好義	
172 ビカビカ星	山田せんし	草川信		214 夕日	葛原しげる	室崎零月	白鳩 T10
173 飛行機	松岸寛一	永井幸次		215 夕焼小焼	中村雨紅	草川信	新・童謡(一) T12
174 日のまる(文)	高野辰之	岡野貞一	専(一) M44	216 雪(文)			専 M44
175 ひなまつり	林柳波	平井康三郎	うたの本(下) S16	217 揺籃の歌	北原白秋	草川信	小学女生 T10
176 ひばり(文)			専(二) M44	218 栗鼠栗鼠小栗鼠	北原白秋	成田為三	赤い鳥 T7
177 広瀬中佐(文)			専(四) T1	219 四丁目の犬	野口雨情	本居長世	金の船 T9
178 風鈴	野口雨情	中山晋平		220 りんごのひとりごと	武内俊子	河村光陽	キング S15
179 富士山	巖谷小波	奥好義	専・読本 M43	221 わらび	北原白秋	本居長世	
180 婦人従軍歌	加藤義清	奥好義	婦人従軍歌 M27	222 われは海の子(文)			専・読本 M43

明治=M 大正=T 昭和=S

「子どもの歌」の12の曲集の概観

今回、調査対象とした「子どもの歌」の曲集はこれまでに教科書として使用した曲集や検討した曲集から下記の12曲集とした。

- 1、誰でも知ってる童謡100選「子どもと歌おう」 1998 カワイ出版 (以下「曲集1」)
- 2、唱歌から現代童謡まで「子どもと歌おう50」 1997 カワイ出版 (以下「曲集2」)
- 3、「こどものうた200」 2001 チャイルド本社 (以下「曲集3」)
- 4、「続 こどものうた200」 2000 チャイルド本社 (以下「曲集4」)
- 5、保育の四季「幼児の歌110曲集」改訂版 2004 エーティーエヌ (以下「曲集5」)
- 6、簡易ピアノ伴奏による「実用こどもの歌曲200選」 2008 ドレミ楽譜出版社 (以下「曲集6」)
- 7、新版「幼児保育の歌とリズム」 2003 音楽之友社 (以下「曲集7」)
- 8、やさしいピアノ伴奏付「保育名歌200選」 2001 ドレミ楽譜出版社 (以下「曲集8」)

9、幼児の音域にあわせた＊キーボード・ダイアグラム付き「幼児の歌12カ月180曲選」
2007 エーティーエヌ（以下「曲集9」）

10、「園児の四季とみんなの歌 幼児音楽教材曲集」 2005 全音楽譜出版社（以下「曲集10」）

11、簡易ピアノ伴奏による「こどものうた大全集」新版 2008 デプロ（以下「曲集11」）

12、いろいろな伴奏で弾ける選曲「こどものうた100」 2003 チャイルド本社（以下「曲集12」）

上記12の曲集のうち「曲集2」が「曲集1」の、また「曲集4」が「曲集3」の続編となっている。

各曲集に収録されている曲から外国の曲とわらべうたの曲数、編曲されている曲数を中心に概観する。編曲数については編曲者が明記されている曲のみとする。

1) 「曲集1」

収録曲数100曲、外国の曲20曲、わらべうた3曲、編曲21曲

編曲は外国の曲15曲、わらべうた3曲、日本の曲3曲であるが、簡易伴奏に編曲されているのではない。この曲集は基本的に原曲を掲載している。

2) 「曲集2」

収録曲数50曲、外国の曲14曲、わらべうた1曲、編曲16曲

編曲は外国の曲12曲、わらべうた1曲、日本の曲3曲であるが、簡易伴奏に編曲されているのではない。

3) 「曲集3」

収録曲数200曲、外国の曲43曲、わらべうた13曲、編曲34曲

編曲は外国の曲14曲、日本の曲18曲と作者不明の曲2曲である。歌唱旋律のみの曲が51曲あり、そのうちわらべうた13曲を除きすべての曲にコード・ネームが付されている。また第1曲から第47曲には遊び方が絵つきで書かれている。

4) 「曲集4」

収録曲数200曲、外国の曲34曲、わらべうた13曲、編曲44曲

編曲は外国の曲7曲、日本の曲37曲である。編曲されている曲で題名が＜どんぐり＞の原題名は＜どんぐりころころ＞である。歌唱旋律のみの曲が89曲あり82曲に遊び方が絵つきで書かれている。わらべうた13曲と外国の遊び歌13曲以外の曲すべてにコード・ネームが付されている。

5) 「曲集5」

収録曲数110曲、外国の曲16曲、編曲66曲

編曲は外国の曲15曲、日本の曲51曲であるが、弾きやすいように簡易伴奏になっている。その他の曲のなかにも編曲者名が書かれていないが編曲されている曲もある。全曲にコード・ネームが付されている。

6) 「曲集6」

収録曲数200曲、外国の曲43曲、わらべうた4曲、編曲13曲

編曲者名が書かれていた13曲はいずれも日本の曲であるが、簡易伴奏による曲集であるため、他の曲については編著者である松山祐士氏の編曲によるものと考えられる。4曲のわらべうたには伴奏が付けられているがコード・ネームは付けられていない。わらべうた

以外の曲にはコード・ネームが付けられている。

7)「曲集7」

収録曲数202曲、外国の曲31曲、編曲98曲

編曲は外国の曲18曲と日本の曲81曲である。曲集の後半には歌詞の付いていないピアノのための小品が54曲収録されているが、そのうち14曲は外国の作曲家の作品で、あとの40曲は日本の作曲家の作品である。歌唱曲にはすべてコード・ネームが付けられている。

8)「曲集8」

収録曲数200曲、外国の曲45曲、わらべうた1曲

ほとんどの曲は簡易伴奏に編曲されているが編曲者名は記載されていない。わらべうたには伴奏が付けられている。

9)「曲集9」

収録曲数180曲、外国の曲27曲、編曲90曲

編曲は外国の曲25曲、日本の曲62曲と作者不明の曲3曲である。曲にはコード・ネームが付けられ、巻末にキーボード・ダイアグラム一覧表が掲載されている。

10)「曲集10」

収録曲数114曲、外国の曲19曲、編曲12曲

編曲は外国の曲7曲と日本の曲5曲である。

11)「曲集11」

収録曲数159曲、外国の曲19曲、わらべうた2曲

曲は簡易伴奏の楽譜であるが、編曲者名が掲載されていない。題名がくきしゃぼっぽ>となっている曲は「第Ⅰ巻」の草川信の作品<汽車>である。全曲にコード・ネームが付けられている。比較的新しい子どもの歌やアニメソングなどが収録されている。

12)「曲集12」

収録曲数105曲、外国の曲17曲、わらべうた3曲、編曲21曲

96曲には2種類の伴奏が掲載されている。<チューリップ>は2種類の伴奏とコード・ネーム付の歌唱旋律が掲載されている。編曲者名が書かれている曲は外国の曲3曲と日本の曲18曲である。ほかに歌唱旋律のみの楽譜4曲と伴奏付きの楽譜4曲が収録されており、曲数は全部で105曲である。曲にはコード・ネームのほかに電子オルガンのコード・ダイアグラムとギターのコード・ダイアグラムが付けられている。

「第Ⅰ巻」の概観の項で明治時代には外国の音楽に日本語の歌詞を付けた曲が多いことについてふれたが、<むすんでひらいて>、<ちょうちょう>、<きらきらぼし>、<ぶんぶんぶん>が上記12の曲集に収録されているので、今回の調査対象ではないがここに記しておく。

<むすんでひらいて>は曲集1、3、6、9、10、11に、<ちょうちょう>は曲集2、3、5、7、8、9、11、12に、<きらきらぼし>は曲集2、4、6、7、8、9、10に、<ぶんぶんぶん>は曲集1、3、5、6、7、8、9、11、12に収録されている。

12の曲集に収録されている作品

「第Ⅰ巻」に収録されている作品のうち53曲が調査した12の曲集に収録されていた。「曲集2」

に＜さくらさくら＞が収録されているが、佐藤敏直編曲による作品であることから、「第Ⅰ巻」の山田耕柁編曲の作品とは別の作品として収録数に加えないことにした。53曲の曲名と収録されている曲集について表にまとめた(表2)。各曲集に収録されている曲を○印で、そのうち移調されている曲は●印で示す。

表2

体系	曲名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	音域	作曲年代	冊数
1	2 赤い鳥小鳥				○	○				○				1点へ～2点二	大正9年	3
2	3 仰げば算し										●			1点二～2点水	明治17年	1
3	6 赤蜻蛉		●		●	○		○			○			1点ハ～2点ハ	昭和2年	5
4	15 アメフリ				○	●	○			●	○	●		1点二～2点二	大正14年	6
5	28 うぐいす(文)									●	○			1点へ～2点二	昭和16年	2
6	30 兎と亀		○				○							1点二～2点二	明治34年	2
7	34 歌の町						○							1点ハ～2点二	昭和26年	1
8	36 うみ(文)	○			○	○	○	○	○	●	○	○		1点二～2点二	昭和16年	9
9	37 おうま(文)				○	○	○	○		○	○	○		1点ハ～2点二	昭和16年	5
10	39 嬉しい離祭り	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1点ハ～2点二	昭和10年	10
11	42 お正月		○	○			○	○	○	○	○	○	○	1点ハ～2点ハ	明治34年	9
12	45 お山のお猿						○							1点ハ～2点二	大正8年	1
13	49 おもちゃのマーチ				○					○	○	○		1点ハ～2点二	大正12年	4
14	59 肩たたき						●		●		○			1点変口～2点変水	大正12年	3
15	60 かたつむり(文)	○	○		○			●	●	●	○	●	○	1点二～2点二	明治44年	9
16	65 かもめの水兵さん											●		1点ハ～2点水	昭和12年	1
17	72 汽車(文)											○		1点二～2点二	明治45年	1
18	73 汽車											○		1点ハ～2点ハ	昭和20年	1
19	79 金魚の屋敷				○					●			○	1点ハ～2点二	大正8年	3
20	82 靴が鳴る		○		○					●	○			1点二～2点二	大正8年	4
21	84 鯉のぼり(文)								○					1点ハ～2点二	大正2年	1
22	94 木の葉				●					●				1点二～2点二	大正1年	2
23	100 里の秋		○											1点ハ～2点二	昭和20年	1
24	104 シャボン玉	○	○		○	○	○	○	○	●	●	○	○	イ～2点二	大正11年	10
25	107 証城寺の狸囃子		○		○	○					●			1点ハ～2点水	大正13年	4
26	122 たきび	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1点ハ～2点ハ	昭和16年	8
27	123 たこの歌(文)				○					●	○			1点へ～2点二	明治43年	4
28	124 たなばたさま(文)	●	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1点ハ～2点ハ	昭和16年	10
29	127 茶摘(文)		○											1点二～2点二	明治45年	1
30	128 チューリップ	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	1点へ～2点二	昭和7年	9
31	131 月(文)				○	○				●	○			1点へ～2点二	明治43年	5
32	137 てるてる坊主		○						○					口～2点ハ	大正10年	2
33	143 どこかで春が		○											1点ハ～2点変水	大正12年	1
34	145 どんぐりころころ	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1点ハ～2点ハ	大正10年	9
35	148 ナイショ話				○									1点ハ～2点ハ	昭和14年	1
36	152 七つの子	○			○	○		○	○	●	○	●		口～2点水	大正10年	7
37	158 はとぼっぼ(文)		○		○							●		1点へ～2点二	明治44年	3
38	167 はやおきどけい		○											口～2点ハ	昭和12年	1
39	168 春が来た(文)		○		○				○	●	○			1点ハ～2点水	明治43年	5
40	170 春の小川(文)		○		○				○					1点ハ～2点ハ	大正1年	3
41	171 春よ来い									●			○	1点嬰ハ～2点嬰ハ	大正12年	2
42	188 故郷		●											1点ハ～2点二	大正3年	1
43	191 まつぼっくり		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	1点ハ～2点ハ	昭和11年	10
44	197 水あそび				○	○		○		●	○	○	○	1点二～2点二	明治34年	6
45	198 みどりのそよ風						○							1点ハ～2点水	昭和21年	1
46	201 虫の声(文)									○	○			1点ハ～2点ハ	明治43年	2
47	203 村祭(文)				○									1点ハ～2点二	明治45年	1
48	207 紅葉(文)		○											1点ハ～2点二	明治44年	1
49	210 森の小人						○							口～2点二	昭和16年	1
50	214 夕日						●							口～2点水	大正10年	1
51	215 夕焼小焼	○			○	○					○	○		1点ハ～2点二	大正12年	5
52	216 雪(文)	○			○	●				●	○	○		1点へ～2点二	明治44年	6
53	217 揺籃の歌		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		1点ハ～2点二	大正10年	8
収録されている曲数		11	16	12	19	14	24	11	18	25	23	24	15			

明治時代の作品15曲、大正時代の作品21曲、昭和時代の作品17曲が収録されている。文部省

唱歌は17曲あり、そのうち明治時代が43年の4曲、44年の4曲、45年の3曲の11曲、大正時代は1年、2年ともに各1曲、昭和時代が16年の4曲となっている。これらの曲は昭和時代後半から平成に入ってからでも小学校で歌われ、広く一般に歌われている曲もある。現在、小学校共通教材として1年に〈うみ〉、〈かたつむり〉、2年に〈春が来た〉、〈虫の声〉、〈夕やけこやけ〉、3年に〈茶つみ〉、〈春の小川〉、4年に〈もみじ〉、5年に〈こいのぼり〉、6年に〈ふるさと〉が採用されている。文部省唱歌以外の明治時代の作品としては17年「小学唱歌集第三編」の〈仰げば尊し〉、33年「幼年唱歌」の〈兎と亀〉、34年「幼稚園唱歌」の〈お正月〉と〈水あそび〉の4曲がある。

12の曲集に一番多く収録されている作品は〈嬉しい雛祭り〉、〈シャボン玉〉、〈たなばたさま〉、〈まつぼっくり〉の4曲で10の曲集に収録されている。前述したように「曲集2」と「曲集4」が続編であることから、すべての曲集に収録されているといえる。次いで9つの曲集に収録されている作品は〈うみ（文）〉、〈お正月〉、〈かたつむり〉、〈チューリップ〉、〈どんぐりころころ〉の5曲である。この9曲のうち明治時代の作品は〈お正月〉と〈かたつむり〉、大正時代の作品は〈シャボン玉〉と〈どんぐりころころ〉で、他の5曲は昭和時代の作品である。逆に1つの曲集のみに収録されている作品は20曲あった。

53曲の最低音は〈シャボン玉〉の歌いだしの音イ音で、最高音は〈赤蜻蛉〉、〈汽車〉、〈はやおき時計〉の2点ヘ音である。また歌唱旋律の音域は、1点ハ音から2点ニ音までが13曲、1点ニ音から2点ニ音までが9曲、1点ハ音から2点ハ音までが8曲で、1点ハ音から2点ニ音までの間で1オクターブか9度で作られている曲が多い。

曲集によっては「第Ⅰ巻」の調から移調された楽譜を掲載している。〈アメフリ〉は3つの曲集で二長調からハ長調に、〈かたつむり〉は4つの曲集が二長調からハ長調に移調している。〈シャボン玉〉は二長調であるが、「曲集9」と「曲集11」はハ長調に移調し、「曲集9」の歌いだしの音は「ト音」と「1点ハ音」の2つの音が書かれ、「曲集10」では変ホ長調に移調し歌いだしの音は「変ロ音」と「1点変ホ音」の2つの音が書かれている。また「曲集6」、「曲集8」、「曲集12」では歌いだしの音が「1点ニ音」になっている。

歌詞についてはとくに大きな問題はないと考えられるが、〈仰げば尊し〉や文部省唱歌の〈鯉のぼり〉、〈茶摘〉、〈故郷〉、〈紅葉〉などは、幼児にとって難しい言葉が使われている。

考 察

現在でも歌われている「子どもの歌」が作曲されるようになったのは、明治30年代になり言文一致による口語体の歌詞が採用されるようになってからのことであるといえる。明治の作品15曲のうち〈仰げば尊し〉を除く14曲がその年代の作品である。〈お正月〉（幼稚園唱歌）は毎年必ず歌われているが、多くの人には〈お正月〉が明治34年の作品であることを知らないまま歌っているのであろう。明治44年の〈かたつむり〉をはじめ多くの作品についても同じことが言えよう。

10の曲集に収録されていた4曲のうち〈嬉しい雛祭り〉と〈たなばたさま〉の2曲は、本学科ではここ数年必ず弾き歌いの必修課題としてきた。また〈かたつむり〉、〈シャボン玉〉、〈たきび〉、〈どんぐりころころ〉、〈まつぼっくり〉、〈揺籠の歌〉も必修課題にすることが多い。これらの曲は収録冊数が多い曲であり、一般的にも需要が高い作品と言える。

1つの曲集のみに収録されている作品のうち＜かもめの水兵さん＞、＜汽車（文）＞、草川信作曲の＜汽車＞、＜はやおき時計＞、＜夕日＞などはもっと多くの曲集に収録されていてもよいのではないかと思う作品である。＜兎と亀＞、＜てるてる坊主＞、＜虫の声＞（いずれも2つの曲集に収録）や＜はとぼっぼ（文）＞（3つの曲集に収録）についても同様のことが言える。

歌詞の中で現在ではあまり使われていない言葉、例えば＜赤蜻蛉＞の「ねえや」、＜アメフリ＞の「ジャノメ」、＜お山のお猿＞と＜金魚の昼寝＞の「べべ」、＜春よ来い＞の「ジョジョ」、＜揺籠の歌＞の「きねずみ」などの言葉については歌唱時に説明した方がよいかと思う。＜里の秋＞はとくに難しい言葉は使われていないが、詩の背景を考えるならば幼い子どもが歌うのには難しい作品であろう。また＜てるてる坊主＞の歌詞については、3番の最後の部分「そなたの首を チョンと切るぞ」が少々残酷ではないかとも思われる。

童話と同じ題名の曲＜兎と亀＞が2つの曲集に収録されているが、この他にも＜一寸法師＞、＜牛若丸＞、＜浦島太郎＞、＜金太郎＞、＜花咲爺＞、＜桃太郎＞も同じ題名の童話がある。これらの曲があまり歌われなくなったように、これらの童話も読まれなくなったのであろうか気にかかるところである。

12の曲集に収録されていた曲は考えていたより多かった。しかし、調査した曲集の半数の5つの曲集（続編を除き）以上に収録されている曲は20曲にすぎない。20曲には明治時代の作品＜お正月＞、＜かたつむり＞、＜月（文）＞、＜春が来た＞、＜水あそび＞、＜雪（文）＞の6曲が入っていることは驚きにあたいた。この20曲という数がこれからのち、どのようになっていくのかについては計ることはできないが、1曲でも多く歌われていくことを期待している。

「第Ⅰ巻」の作品より選曲

12の曲集に収録されている作品のほかにも、「第Ⅰ巻」には子ども向きの作品が数多く収録

表3

	体系	曲名	音域	備考
1	5	赤ちゃんのお耳	1点ハ～2点ニ	コドモノクニ S17
2	21	池のこい	1点ニ～2点ニ	尋常小学唱歌（一） M44
3	31	兎のダンス	1点ハ～2点ホ	コドモノクニ T13
4	32	兎の電報	1点ニ～2点ニ	赤い鳥 T8
5	75	汽車ポッポ	ロ～2点嬰ハ	S14
6	117	背くらべ	1点ニ～2点ホ	少女号 T8
7	159	鳩ぼっぼ	1点ハ～2点ニ	幼稚園唱歌 M34
8	175	ひなまつり	1点ハ～2点ニ	うたの本（下） S16
9	181	ふたあつ	1点ニ～2点ニ	キングレコード S11
10	191	はたる（文）	1点ハ～2点ニ	新訂尋（三） S7

備考欄の略語は表1と同じである

されている。そのなかより10曲だけ選んでみることにした。選曲に当たり音域は問題がないことは分かっていたので、子どもらしい歌詞と歌唱旋律であることを条件として行った。その結果、明治時代が2曲、大正時代が3曲、昭和時代が5曲であった(表3)。

童話と同じ題名の<一寸法師>、<牛若丸>、<浦島太郎>、<金太郎>、<花咲爺>、<桃太郎>なども歌われていいと思う作品であるがここでは省くことにした。

結 語

まえにも述べたように、草創期の「子どもの歌」はほとんどが外国の音楽に日本語の歌詞を付けた曲であったが、その時期を経て明治30年代になると、現在でも歌われている日本の詩人と作曲家による「子どもの歌」が作られるようになった。それら明治30年頃から昭和20年頃までの約50年間に作られた作品が、戦後に作られた本当に沢山の「子どもの歌」やテレビソング、ディズニーソング、アニメソングなどと共に今後どのような存在感を示していくのか、その推移を見守りたい。

保育者になることを目指している学生は、あらゆる年代の、あらゆる国の、あらゆるジャンルの作品をバランスよく学習する必要がある。そして指導者は、学生がよりよい学習をするように配慮していかなければならない。

本研究の過程で、主たる研究目的以外に「日本の子どもの歌」という文化についても向き合ってきた。幕末に洋楽が本格的に日本に輸入され、日本の洋楽は今日まで大きく発展してきた。その流れのなかで日本の「子どもの歌」もまた発展してきている。日本の「子どもの歌」は明治時代の音楽取調掛の「東西二洋音楽を折衷して新曲を作る事」の方針に基づき西洋音楽と日本音楽との折衷の研究が始まり、言文一致の唱歌、童謡運動から生じた童謡と唱歌との間の芸術性と教育性についての論争、戦後の芸術性の高い「子どもの歌」が作られるようになるまで、一步一步着実に前進してきた。筆者は学生に作品を教えると同時に、このような日本の「子どもの歌」の歴史と文化についても伝えていかなければならないと考えている。そして、それぞれの時代の「子どもの歌」ができるかぎり多く歌い継がれていくことを願っている。

今回の研究から得たことは教科書の選考のみならず、あらゆる機会に役立たせたいと思っている。今後は芸術性の高い「子どもの歌」といわれている作品を中心に戦後の「子どもの歌」についても調査を行いたいと考えている。

注

- 1) 「日本童謡唱歌体系第Ⅰ巻」序 13行 東京書籍 (1997)

参考文献

- 1) 「日本童謡唱歌体系第Ⅰ巻」 東京書籍 (1997)
- 2) 「音楽教育の歴史」 音楽之友社 (1983)
- 3) 「音楽科 重要用語300の基礎知識」 明治図書出版株式会社 (2001)
- 4) 「東京芸術大学百年史」 音楽之友社 (1987)
- 5) 「日本唱歌集」 堀内敬三・井上武士編 岩波書店 (2006)
- 6) 「日本童謡集」 与田準一編 岩波書店 (2009)

